

【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】ユキオズファーム（滋賀県大津市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
みなちから	約3.1ha	647kg/10a	162kg/10a(499kg/10a)※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】 ○ 本人、従業員2名、アルバイト2名で経営する専業農家。 ○ 経営面積は36ha。飼料用米、主食用米、麦、大豆、子実用とうもろこしを栽培	【作付品目】 ・主食用米：コシヒカリ、ミルキークイーン、キヌヒカリ、きぬむすめ、ほか 約19.0ha ・飼料用米：みなちから 約3.1ha ・麦・大豆・子実用とうもろこし 約13.9ha
--	---

【取組のきっかけ】 ○ 地域の養鶏農家が国産の飼料利用を進める中で、平成19年から飼料用米「日本晴」の作付けを開始。その後、「モミロマン」「吟おうみ」「北陸193号」を作付けし、令和4年産から「みなちから」を作付けしている。 ○ 当該地域は砂壤土で単収が低いことから、地域で初めて多収品種で病害虫に強い「みなちから」を作付けている。

【取組概要】 ○ 単収向上に向けて、JAと連携して施肥設計を見直すとともに、ほ場条件に合わせた鶏糞の活用や普及センターともタイアップしながら肥料が切れないように肥培管理を行っている。 ○ 生産コスト低減のため、ほ場ごとに施肥体系を分け、側条施肥田植えによる元肥の一発施用や大型ドローンを用いた化成肥料の追肥(穂肥1回)をJAへ委託するとともに、自ら所有しているドローンを活用し除草剤の散布を行っている。 ○ さらに省力化のため、防除は、原則、田植え時に除草剤を同時散布(1回)し、立毛乾燥をするとともに、収穫・乾燥調製作業は、主食用米と作期を分散している。 ○ 生産した飼料用米は、「50グラム会」(滋賀4軒、三重1軒の養鶏グループ)へ出荷し、養鶏農家から無償で提供された鶏糞をほ場へ還元するなど、耕畜連携の取組を行っている。 ○ 早くから飼料用米の生産に取り組み、近隣の担い手農家と多収に向けた技術の情報交換を行うなど地域の模範となっている。
--

